

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500378
法人名	社会福祉法人 常美会
事業所名	グループホームうわばら
所在地	愛媛県新居浜市上原4丁目1番15号
自己評価作成日	平成26年 1月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年2月6日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

恵まれた大自然の中で生活されています。天気の良い日は瀬戸内の島々を眺望することが出来、あきる事はありません。冬場は温かい暖房の部屋から雪景色を楽しむ事ができます。木造平屋建て。落ち着いた雰囲気の中、ゆったりと毎日を過ごされています。一人ひとりの個性を重んじ、ホームの理念である「我家」であることを目指します。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所でみそを手作りして、伊吹島のいりこで出し汁を取り、具だくさんのみそ汁を楽しまれている。前回の外部評価実施後から、毎月、利用者の写真を採り入れたはがきを職員が作成し、ご家族に送付されている。利用者がメッセージを書くこともあるようだ。ご家族からは、「感激して涙が出た」という感想をいただいたり、遠方の家族には感謝の言葉をいただいた。転倒等の事故やヒヤリハット事例は、管理者が発生時間等の傾向を探っており、改善できるよう提案等して職員の意見を聞きながら取り組みをすすめておられる。ご家族の了解を得て、ひとりで歩いて近くのご自宅に戻る方がおられる。ご自宅では、換気等して、様子を確認してからホームに戻って来られるようだ。運営推進会議時には、身体拘束をテーマに挙げて座談会等を行い、事業所では身体拘束は行わないことを説明された。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームうわばら

(ユニット名) うめ

記入者(管理者)

氏名 坂田 恵

評価完了日

平成 26 年 1 月 27 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念の必要性を最初のユニット会で話し合い、ホームの理 念、ユニットの理念を独自に作りあげた。 私達はこの理念を目指して歩いて行かなければならない。	
			(外部評価) 管理者がつくった「和我家」という理念と、ユニットリーダーが それぞれに、「十人十色」「しあわせづくり」とユニット理念を つくっておられる。リーダーは、「1人1人の幸せをどのように つくっていくかが我々の使命である」と考え、日々のケアに取り 組まれている。掲示されている理念をみて、利用者が復唱 されることもあるようだ。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域のイベント等に参加したり、近くの神社に初詣、日常の 散歩等を通して、自然に地域に溶け込んでいきたい。法人 全体で行なわれる盆踊り大会や、校区の夏祭りに参加し、地 域の方々との交流を行っている。	
			(外部評価) お正月には、自治会長の方が門松を届けてくださる。運営 推進会議時に法人介護施設の見学会が併せて行われ、26 名ほどの地域の方の参加があった。後日、事業所への問い 合わせ等もあったようだ。事業所敷地内の畑では、地域の保 育園の園児と一緒にさつま芋堀りを楽しんだこともある。法人 の季刊誌に「お花を募集しています」と掲載したところ、地域 の方が届けてくださった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の地域の方に呼びかけて、施設見学会をおこ なった。沢山の参加者がおられ、介護施設への理解を深め て頂いた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月ごとの報告を行っており、家族さんからの実直な意見も頂いている。ホームからは介護に関わる情報の発信を行い、地域の会合の資料として利用して頂いている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議の年間計画を立て、2か月ごとに開催されている。会議メンバーを固定し、開催日を奇数月の第3金曜日と決め、予定を立てやすいようにされている。会議では事前に、利用者の状況や活動をまとめ、資料を準備して、メンバーに分かりやすいように工夫されている。又、認知症について、廃用症候群、身体拘束等、介護に関する情報を紹介されている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市職員の方も運営推進会議に参加され、話し合いがおこなわれている。事故報告書等、市役所提出時には状況説明と、改善策等の話し合いをおこなっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>市内のグループホームでの交流会には今後、ケアマネジャーが参加する予定で、他事業所の家族とのつきあいの工夫や運営推進会議のすすめ方等について、参考にしたいと考えておられた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>夜間の施錠は安全対策の為に行っている。ユニット会において、身体拘束の学習会を行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>転倒等の事故やヒヤリハット事例は、管理者が発生時間等の傾向を探っており、改善できるよう提案等して職員の意見を聞きながら取り組みをすすめておられる。ご家族の了解を得て、ひとりで歩いて近くのご自宅に戻る方がおられる。ご自宅では、換気等して、様子を確認してからホームに戻って来られるようだ。運営推進会議時には、身体拘束をテーマに挙げて座談会等を行い、事業所では身体拘束は行わないことを説明された。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 「介護者のストレスから虐待が始まる。」と言われている。職員の精神面でのケア、職員の情報が管理者に伝わってくるような環境作りを行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 該当者はいないが、今後の為に研修会等に参加し、制度の仕組みについて理解を深めたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所契約時にわかりやすく説明を行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情、要望があれば、すぐその場にいる職員全員に伝達。情報が全職員に伝わるよう、連絡ノートの活用。その場で解決できることは素早く行う。解決策が難しい場合は、同法人内の上層部に相談、助言を求める。 (外部評価) 前回の外部評価実施後から、毎月、利用者の写真を採り入れたはがきを職員が作成し、ご家族に送付されている。利用者がメッセージを書くこともあるようだ。ご家族からは、「感激して涙が出た」という感想をいただいたり、遠方のご家族には感謝の言葉をいただいた。	今後は、ご家族をお誘いして食事会等も行いたいと考えておられた。ご家族は利用者とともに支えるケアパートナーでもあり、一緒に活動したり、一緒に、ケアや暮らしについて話し合うような機会も作っていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月行われるユニット会等で得られた必要な事項は、業務等で反映できるよう努めている。	
			(外部評価)	
			レクリエーション等について、職員でアイデアを出して取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員の家庭事情、健康状態、能力等を把握し、支援を行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			同法人内で行われている内部研修に参加。今後、研修内容に応じて、外部研修に参加していく。 当法人において、スキルの向上を目的とした、資格習得援助がある。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			法人内の勉強会等には参加できているが、同業者との交流は、できていない。交流機会があれば参加していく。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			安心してもらえる言葉掛けを心懸けている。不安が取り去られない場合は、家族への連絡をおこない、ホームに預けっぱなしという状態を作らないよう心掛けている。より深く本人への理解を深める為、担当職員を置き、支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事前、入所契約時の面接時等に精神面、肉体系、家族を取り巻く諸事情を伺い、本人に対する思いや希望を充分に知り得るように努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>状態を一番把握してる方から情報を伺い、混乱を招く対応をしないように努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>馴れ合いも必要だが、尊厳を持った態度で接するように、常に職員教育を行っている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族の状況を把握した上で、お願い出来る事はして頂き、絆を失わないよう支援している。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>友人や家族との面会や外出が気持ちよく出来る様に、職員の態度、言動に失礼のないように日頃から職員教育を行っている。気軽に立ち寄れるホーム造りを目指している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>カットや毛染めを行えるよう、馴染みの美容室へご家族が付き添ったり、職員が同行して支援されている。ドライブがお好きな利用者は、ご自宅のある地域の見慣れた風景を喜ばれるようだ。お正月の三が日には、数人ずつで神社へ初もうでに行かれた。利用者は階段をご自分で上り、お参りをされたようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 人間関係を十分に把握し、トラブルが起きた時は、さりげなく職員が入り、関係がこじれないように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 2名の退居者がおられた。家族の要望で精神科の病院に入院された。もう一名は大阪の家族さんの元に帰られ、死亡されたとの報告を受けた。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉で訴えられる方は把握できる。言葉少ない方こそ、思いを知る必要がある事を、職員は認識し、大事にしていきたい。	
			(外部評価) 他事業所の様式等も参考に、ケアマネジャーがアセスメントシートを作っておられ、「入居前・入居時・入居後」と欄を設け、利用者について得た情報を整理されている。将棋が得意な利用者は、職員と一戦を交えることもあるようだ。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人を一番知っている方からの情報収集や、生活歴、趣味、習慣等を知り、今の生活に生かせるよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録に毎日の状態を記録。いつもと違う事が見られた時は職員に伝達をおこない、日々の状態を把握している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			3か月に一度、計画の見直しを行っている。家族の要望や、介護職員の気づき等を取り入れながらも、本人主体の計画書であることを重視している。	
			(外部評価)	
			ケアマネジャーは、利用者の望むことや生活の場であることを大切にして、計画を立てるようにされている。ご家族には利用者の暮らしやケアの希望を事前にお聞きして、反映できるよう努めておられる。持病のある方で痛みを伴うような方には、主治医より、やさしく声かけしてあげてほしいとアドバイスがあり、計画に採り入れ支援されている。ケアマネジャーは、今後さらに、「調理や掃除等、家で行っていた事を計画に入れていきたい」と話しておられた。	今後さらに、一人ひとりの暮らし方の希望や、思いや意向についての情報を介護計画に反映して、その人らしく暮らすための支援につなげていかれてほしい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日誌、ケース記録、伝達ノート等を活用。口頭での伝達などで情報の共有を行っている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			遠方の家族、高齢の家族、体調が悪い家族等に代わり、本来ならば家族対応の病院受診などにも対応。ラインをつけず、その時その時で柔軟に対応している。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			近所に家のある方が居られ、時々「一人で歩いて帰りたい。」と言われる。遠方に住む家族さんも「母の好きなようにさせてあげてください。」と言われ、不安ながらも実行。道中、知り合いの方と話をされたり、ミカンを頂いたり、心配は尽きないが支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 受診されている方が1名おられる。家族からの強い要望であり、本人も強い信頼関係で結ばれている。その絆を大切に、状態の変化についてしっかり報告ができるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 4週間に1回、主治医の往診がある。法人施設の看護師が相談に乗ってくれたり、利用者の健康管理をしてくれている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護師はいないため、同法人内の看護師より、適切な指示や相談に乗っていただいている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 協力病院があり、何事も相談出来る。骨折で総合病院に入院した場合は、最初の段階で、早期退院をお願いしている。(家族の方からも早期退院に向けての相談があった。)</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 2名の看取り介護を行った。2名共ご夫婦であられた。残される方の今後は重要視し、何も変えない(環境)自然な看取りを行った。職員の中には不安を訴える人もいたが、看取り介護を行う事で大きな学びと感動があった。</p> <p>(外部評価) 利用者の状態変化時、管理者は、これまでの介護経験を活かして、終末期の過ごし方について、ご家族と話し合いの場を持ち、一緒に考えるようにされている。不安に思う職員には、管理者が体験談を話す等して不安軽減につながるよう取り組まれた。利用者の最後までトイレで排泄したいという気持ちを大切にして支援された事例や、口の中やからだを拭く等して、気持ちよく安楽に過ごせるように支援された事例がある。ご家族からは「よかった」という感想もあったようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 開設時にマニュアルを作成している。どう対応すればよいのか、文章化している。(職員がパニックをおこさないように。)	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署立ち合いでの避難訓練を行っている。災害や、施設外徘徊者が発生した時は、同法人の協力が得られる。 (外部評価) 6月には、夜間、トイレの便座から出火したことを想定して避難訓練を実施し、非常連絡対応等を体験された。消防署の方からは、「まずは消火することが大事」とアドバイスがあった。今後は2月下旬にも消防立会いの下、日中の火災想定での訓練を予定されている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 下着の干し方にしても、「自分だったら恥ずかしい。と思うような干し方はしないで。」と職員教育をしている。言葉使いも、「目上の方だという事を忘れずに。」と日頃から伝えている。 (外部評価) 事業所では、職員の利用者への言葉かけをとっても大切に考えておられ、管理者は、職員に時をみて伝えておられる。みかんを箸で食べる利用者に、職員は否定することなく「器用に食べておられますね。剥きましようか？」と声をかけておられた。又、ティッシュを束ねて持って来られた方には、「持って来てくださったんですね。ありがとうございます。いつも助かります」と声をかけておられた。介助の必要な利用者がトイレで排泄する場合は、職員は扉の外で待ち、さりげない介助に努めておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何がしたいのか、いつも声掛けし、思いを聞き出す努力をしている。「映画に行きたい」「石鎚神社に行きたい」「イタリアン大好きなの」そんな声を叶えてあげたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)  本人の意思を尊重し、集団的にならないように、個々の意思 決定に添った支援を行う。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価)  「すてきですね。」「綺麗ですね。」と言葉に出して褒めてあ げる事を心掛けている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  一人ひとりがそれぞれのお箸、お茶碗、湯呑みを使われて いる。職員の指導のもと、お味噌を作ったり、いりこをむしっ たりと、何らかの形で食に関わりをもっている。一人ひとりの 食への思いを探していくのが楽しい。	
			(外部評価)  事業所でみそを手作りして、伊吹島のいりこで出し汁を取り、 具だくさんのみそ汁を楽しまれている。現在は、昼・夜のおか ずは、法人厨房から届くようになっており、事業所でごはん 汁ものを作っておられ、ごはんは押し麦が入っていた。ゆく ゆくは、すべて事業所で手作りしたいと考えておられる。職 員も利用者と同じものを一緒に食べながら、食事の感想等を 話しておられた。訪問調査時には、利用者が数人でおかず の盛り付けをしたり、流し台まで下膳する方も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)  入居され皆さん体重増加されている。主食は控え気味に、 副食は野菜中心に品数多くを心掛けている。健康診断の結 果等で問題のある方等は、同法人内の管理栄養士や看護 士の方から指示を受けている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)  毎食後に口腔ケア、就寝前には義歯洗浄を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全員トイレでの排泄である。流す事が出来ない、便器を汚す方もおられ、プライドを傷つけないように、そっと後始末を行っている。	
			(外部評価) トイレには少し低い位置にトイレと書いて貼っておられた。夜間、居室でポータブルトイレを使用する方は、センサーチャイムを付け、ベッドから移動する際、安全に使用できるかご本人に気付かれないように見守るようにされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 夏場は水分量が多く摂取できているが、冬場はどうしても難しくなる。みかん等を食べて頂いたり、食事の中に水分を多く取り入れ工夫している。水溶性の食物繊維を多く取り入れるよう、心掛けている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 最初は自由に入浴されていたが、次第に不公平を訴える方が多くなった。公平に入浴できるように日にちを決めた。入浴の嫌いな方もおられ、強制的にならないように臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 利用者の状態や日中のスケジュールにより、午前中に入浴するユニットと、午後から入浴するユニットがある。入浴を断るような利用者も複数おられ、現在は、週に2回の入浴となっている。拒む利用者には、居室でお誘いすると入浴につながるようなこともある。又、何度もお誘いすると、「自分ですから」とご自分で脱衣して入浴する方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重し、マイペースで過ごされている。清潔な寝具で安心して入眠して頂けるように支援している。昼夜逆転されている方もおられ、医師からのアドバイスを受けている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の薬の内容をいつでも見ることができるように、職員の机の引き出しの中にファイルが置いてある。薬に関して処方等が変わった時は、必ず、個人申し送りノートに記入。体調の変化の有無の確認を怠らない。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お茶を入れるのがその方の役割になり、「朝、モップを掛けることが私の仕事よ。」と言われる方。必要とされている事の喜び、張り合いを引き出せるように、支援を怠らない。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 歩行がしっかりされている方はホーム周辺を散歩されている。年初めに初詣に行かれた事は、みんなの大きな喜びであった。外食もとても喜ばれるので、今後も頻繁に行っていきたい。	
			(外部評価) 男性利用者は出かけることが好きな方が多く、敷地内を散歩されたり、ドライブに出かけることもよくある。外食時には、「お寿司とうどんどちらがいいですか?」と選んでもらう等して、外食先を決めておられる。法人施設の道路側にポストがあり、職員は、ご家族へのハガキ等を利用者へ投函しに行かれることもある。「バスでショッピングセンターに行きたい」「映画に行きたい」と言われる方もあり、気候が良くなったら出かけてみたいと管理者は話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の要望もあり、所持金は事務所管理が原則となっている。がしっかりされた方は、お金を持たれている。「何等か原因で無くなってもいいですから。」と家族から言われているが、お金に関するトラブルは複雑である。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 月に一度、写真付はがきを送付している。とても喜ばれている。携帯を持たれている方が2名。連絡は自由にとれるが、家族さんの事を重視し、適度な範囲で連絡をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ユニット入口の壁面には四季に応じた飾り付けをおこなっている。冬場は日差しが入り、温かいユニットである。夜間、小さな明かりや非常灯にも混乱を起こしている方がおられる。感知式のトイレの電気にも混乱されている方がおられる。設備上どうにもならない。昔ながらの物が一番よい。	
			(外部評価) 玄関や居間には、梅の大きな枝を生けておられた。ユニット間には、中庭があり、プランターにはパンジーを植えておられた。居間は広い造りで、昼食後には、職員と歩行練習している利用者の方や、テレビでお好きなカラオケ番組を見ながら口ずさんでいる方もおられた。感染症予防の為、次亜塩素酸ナトリウムを薄めて使用できる加湿器を使用されていた。職員は、「和我家」を目指して、利用者個々がご自宅に居るような雰囲気を作っていきたいと考えておられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 畳でくつろいだり、家族面会があれば、掘りごたつで話をされている。床暖房であり、冬場でも寒さを訴える方はおられないが、床でござ寝をされると困ってしまう。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具、本、思い出の品々、亡くなられたご主人の写真、お位牌等、職員が口出しすることなく、危険な物以外は自由に置いていただいている。	
			(外部評価) ご家族がお孫さん等の写真を飾ってくださっている居室や、お気に入りの花瓶を飾ったり、沢山の本を持ち込んでいる方もおられた。お花を飾っている方は、ご家族が時々生け替えてくださっている。調査訪問時には、窓のレースのカーテンを開け、ベッドに横になって雪で白くなっていく山々を眺めている利用者がおられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内で混乱を防ぐ為に、説明書きなどを貼って対応。理解できない方には何度も説明を行っている。	
			(外部評価)	